

議会報告会 会場報告書

担当班： 第3班 班代表者：荒木礼子

概 要			
地区名 : 今田地区 日時 : 令和8年5月18日(月) 場所 : 今田まちづくりセンター 参加人数 : 7人(男5人・女2人)	【出席議員】	(1) 開会あいさつ : 荒木 礼子 (2) 質疑応答 : 上田 英樹 (3) 意見・提言等 : ー (4) 閉会あいさつ : 金崎 美和	挨拶・総括 : 荒木 礼子 司会進行 : 小畠 政行 記録 : 前田えり子 本多 紀元 上田 英樹 会場(マイク) : 金崎 美和

【主な質疑】

質疑・意見(第一部 議会報告について)	回 答
J R 篠山口駅東口周辺の整備について、再整備に向けて「篠山口駅前整備基本構想」の策定に取り組むとのことだが、将来どのような整備を行っていくのか。	今年度は、J R 篠山口駅東口周辺整備の今後の方向性を定める「基本構想」の策定に着手する。具体的な整備内容については、基本構想において、これまで地域で検討されてきた構想を踏まえ、交通調査等を実施しながら課題整理を行い、将来の整備方針を具体化していく。現在、東口の駅前広場の再編、旧駅前広場の活用、周辺の空き家対策、景観計画の制限緩和などについて検討を進めている。
駅東口の活性化に取り組むとのことであるが、鉄道の玄関口である J R 篠山口駅については、西口(西側)も含めて一体的に活性化を図るべきではないか。	西口の区画整理事業は、当初から駐車場利用を目的としたものではなく、賑わい空間の創出を目指した内容の計画であった。東口だけではなく西口の活性化も併せて進めるべきとの意見については、貴重なご意見として執行部に伝える。
J R 篠山口駅の自由通路について、人が通行するだけの通路ではなく、店舗等を設置できるように拡幅や増築、改修を行い、賑わいのある空間とすることはできないか。	J R 篠山口駅の自由通路については、貴重なご意見として執行部に伝える。

議会報告会 会場報告書 2 部 『道の駅を活かした地域経済の活性化』

今田地区

A 参加者からの意見や課題

担当班：第3班 班代表者：荒木礼子

道の駅

- ・道の駅のコンセプトや完成イメージが市民に十分共有されていない
- ・道の駅施設内に、小さい子ども連れのファミリー向けの食事メニューや安心して遊べる場所がほしい
- ・広い敷地の草刈りなど景観の維持管理、トイレを含む施設全体の美化と維持管理ができるか心配
- ・「ふるさと公園」をきれいにしてほしい
- ・駐車場からは階段や坂が多く、気軽に立ち寄れる場所とは言えず来客が見込めるのか心配

周辺飲食店

- ・周辺の飲食店は予約が必要な高価格帯なので、家族連れが気軽に利用出来るような食事やお店が必要だ
- ・周辺の飲食店は、春や秋の観光シーズンはいずれも混雑し、行列ができています
- ・特産品の「しし肉」は有名であるが、年間を通じて活用していくことが課題である。「特色ある名物グルメ（看板メニュー）」として、市内産農産物を使ったメニューや、ジビエなどを検討してはどうか

アクセス

- ・アクセスルートとなる道沿いに学校園があり、交通の安全面が不安
- ・国道からのアクセスが悪く、進入路が分かりにくいので、しっかりと目立つ看板が必要だ

B 参加者からの対策や解決するために必要なこと

道の駅

- ・バードウォッチングなど自然を活かした体験の提供
- ・ふるさと公園は、子どもや犬が自由に散歩や遊びを楽しめる自然空間として、坂や階段の不便さは“健康的”と前向きに捉えた提案やPRを行う
- ・「アクセスの悪さ」というマイナス要因を逆手に取り、静かで豊かな自然環境そのままを魅力とし、差別化を図るブランディングを展開する

- ・SNSでの宣伝やPR発信を強化、特に開業までのPR戦略は不可欠
- ・丹波篠山の農産物を通年購入できる体制を整えることが必須

周辺飲食店

- ・名物グルメ、特色ある食事の提供が必要
- ・マルシェなどのイベント開催で広場を活用した賑わいの創出
- ・軽食等や低価格帯の食事の提供。キッチンカーにきてもらう
- ・市内をめぐるツアーに、道の駅を組み込んでもらう
- ・季節観光等と連携する（例えば桜やコスモス、紅葉など外部と連携）

【考察】参加者の意見から見えてくるもの

道の駅

- ・道の駅のコンセプトや方向性、完成イメージなどの情報共有が十分ではないことが、市民の不安を生んでいるため、より具体的な情報の提供と共有に取り組む必要がある。
- ・景観や施設の美化、維持管理は、道の駅の人気に直結する重要な課題であるため、今田地域の自然環境そのものの魅力が伝わるような維持管理をする必要がある。また、それらを活かした提案や体験企画、さらに最大の強みである温泉と組み合わせて独自性を高めていく必要がある。
- ・立地条件の不利が最大の課題と認識されている一方で、この弱点を逆手に取ったマイナスをプラスに変える発想により、「自然豊かな山の中の目的地型道の駅」として、ありのままの環境を強みに変えるブランディングで他施設との差別化を図る戦略的なPRが必要である。

地域経済の活性化

- ・マイナスをプラスに捉える視点を持ち、すでにある地域資源を活用し、地域の内外の人や施設と連携して地域に人を呼び込むことが理想的である。